

<学校名> 和光市立北原小学校
<所在地> 和光市新倉1丁目5-27
<電話> 048-461-3374

<本事例の特徴>

本校に勤務するALTの親族と、彼らを通うフィリピンの小学校の児童たちが、本校の3年生と4年生とオンラインによる国際交流を行った。児童同士の年齢が近いこともあり、授業で学習した会話表現を用いて、共通の趣味や話題を積極的に会話することができた。互いに親睦を深めたことで、相手の国に対する興味関心が深まり、次回を望む声が両サイドからあがった。

<具体的な取組や成果>

1 ○外国語活動の時間の「国際理解教育」～リモートで現地家庭とつながる。

・3年生は、本校のALTの親族（小学校3年生）と交流を行った。英語でのあいさつ、本校の児童が学習した英語の会話表現を使つての会話、また現単元のスピーチを児童たちがALTの親族（小学校3年生）の前で発表した。初めて外国の人と会話をしたという児童が多く、英語を通して交流できたことに大きな喜びを感じていた。

○ALTの親族（小学校3年生）の感想より

日本のお友達がみんな笑顔で積極的に話しかけてくれてとても楽しかったし、うれしかった。またみんなと話したいし、日本人のお友達をつくりたいと思っている。ICTを使った今回の交流は、教室という枠をこえて、国境をこえた交流と学びの機会をつくれる、とても素晴らしい方法だと思う。

○児童の感想より（一部）

初めて外国の人と話せてとてもうれしかった。緊張したけど楽しかった。何を言っているかわからないこともあったけど、同じ食べ物とかアニメが好きで、同じだなと思った。



2 ○外国語活動の時間の「国際理解教育」～リモートで現地小学校および家庭とつながる。

・前回の親族に加え別の親族と、その親族を通う小学校のクラスメイト3人（合計5人）が、本校の小学4年生とオンラインにて国際交流を行った。両国の児童が自由に交流することで、生き生きとした表情で活動する姿がみられ、現地学校関係者及び保護者からも児童たちが国境を越えて積極的に交流する姿に感動したという感想をいただいた。

○現地小学生の保護者（兼同校の教員）より

今回自分の孫が参加して、孫としてだけでなく保護者としても、とても有意義な時間が過ごせたことに感謝している。学校としても今回の試みに大きな学びを得ることができて、ぜひ自校でも取り入れたいと思っているし、またこのような機会があればぜひ子供たちを参加させたいと思う。

